

(4) 絶えず変化する社会の需要に応えられる人材となっているか

—幅広い視野と柔軟性のある若手研究者の育成

文化資源の保存・活用・創造のように幅広く複雑な課題に対応するためには、自然科学のみならず、心理学、社会学などの人文・社会科学との連携や国際的な協力が必要であることから、こうした連携や協力に柔軟に対応できる能力を持つ人材の育成を長期的視点に立って行うことが必要である。

特に、文化資源の保存・活用・創造を支える科学技術には、関連分野についての幅広い知見と新しい科学技術を受け入れる柔軟性及び新しいものを創り出す創造性が必要であり、そういうものを持った若手研究者が十分に能力を発揮できるように、若手研究者の自立的な研究活動を支援する体制を整えることが必要である。

(5) 科学技術と社会との意思疎通(コミュニケーション)ができてきているか

—社会の需要に応じた科学技術の振興

一般市民が文化資源の保存・活用・創造を支える科学技術についての知識とそういった科学技術の果たす役割を正しく認識するためには、市民の参加を広く求めていくことが必要であり、また、一般市民の生活・行動に反映され得るような科学技術の普及・啓発活動の充実が不可欠である。

こうした観点から、各種研究成果等については、一般市民が正しく理解できるように、インターネットや科学館などを活用して、わかりやすい形で情報を提示することにより、文化資源の保存・活用・創造を支える科学技術についての認識を深め、そういった科学技術の必要性についての市民的合意の醸成を目指すとともに、文化資源の保存・活用・創造に資するようにすることが重要である。

特に、良質で多様な文化遺産に関する情報を、国民の誰もがインターネットを活用し、いつでも容易に総覧できる新しい環境を提供するとともに、世界に向けて我が国の優れた文化遺産を発信する必要がある。このため、文化庁等では、国や地方の有形・無形の文化遺産に関する情報を積極的に公開することなどを目的とする「文化遺産オンライン構想」を推進しているところであり、平成18年度に1,000館程度の博物館・美術館等の参加を目指す文化遺産のインターネット上での総覧の実現などの取組を着実に進める必要がある。

また、社会の需要自体が絶えず変化していくと考えられることから、それを的確に把握して、それに応じた研究課題の設定をしていくことも必要である。

更に、科学技術と社会を仲介し、社会に科学技術を伝える橋渡し役となる者の養成が望まれる。

(6) 次世代の主要産業を支えられるか

—メディア芸術振興のための技術的な基盤整備の推進

日本のメディア芸術は、世界の最高水準にあると言われており、特に、日本製アニメーションは海外で高い評価を受けるとともに^(注7)、米国での日本製アニメーション関連ビジネスは鉄鋼の対米輸出額の3倍以上の額となっている^(注8)と試算されている。

これらの背景には、漫画などの豊富な原作、2D(二次元)技術の発達、過去の作品の蓄積、多チャンネル化による世界的な作品の不足などがあると考えられる。

我が国のメディア芸術は世界に誇れる文化であり、今後の文化芸術全体の活性化を促すけん引力として、その一層の振興を図る必要がある。

このため、科学技術の分野においても、作者の創造性を十分に発揮することを支援するためのメディア表現技術の調査研究等を積極的に推進し、技術的な基盤を早急に整備していく必要がある。

特に、魅力的な作品を制作するには、既成の技術を使って制作するのではなく、作品の制作を前提に新しい技術を開発しつつ制作していくことが必要であり、そのための中長期的な技術基盤の開発を推進していく必要がある。

注7:宮崎駿監督の作品「千と千尋の神隠し(英題:SPIRITED AWAY)」が、平成14年2月の第52回ベルリン国際映画祭でグランプリ(金熊賞)を獲得するとともに、平成15年3月、米国の第75回アカデミー賞の長編アニメーション部門を受賞した。

注8:日本貿易振興会(現 独立行政法人日本貿易振興機構)の調査報告書「米国アニメ市場の実態と展望」(2003年3月)によれば、米国における日本のアニメーションビジネスの市場規模は、推定で年間43億5911万ドル(2002年)であり、これは、米国の日本からの鉄鋼製品輸入額13億8000万ドルの3.2倍に相当する。



科学技術・学術審議会 資源調査分科会 委員名簿

分科会長	石谷 久	慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
分科会長代理	谷岡 郁子	中京女子大学長
	石田 瑞穂	独立行政法人防災科学技術研究所研究主監
	磯貝 彰	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授
	今井 通子	株式会社ル・ベルソー代表取締役
	川崎 雅弘	独立行政法人科学技術振興機構顧問
	鈴木 賢一	日本水産株式会社相談役



科学技術・学術審議会 資源調査分科会 文化資源委員会 委員名簿

委員	石田 瑞穂	独立行政法人防災科学技術研究所研究主監
	◎石谷 久	慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授
	今井 通子	株式会社ル・ベルソー代表取締役
	川崎 雅弘	独立行政法人科学技術振興機構顧問
	谷岡 郁子	中京女子大学長
専門委員	青木 繁夫	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所修復技術部長
	恵多谷 雅弘	東海大学情報技術センター研究員
	北田 正弘	東京芸術大学大学院美術研究科教授
	◎沢田 正昭	筑波大学芸術学系教授
	舘 暁	東京大学大学院情報理工学系研究科教授
	中村 俊夫	名古屋大学年代測定総合研究センター教授
	浜野 保樹	東京大学大学院新領域創成科学研究科助教
	原島 博	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授
	藤本 英雄	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
	丸野 進	松下電器産業株式会社先端技術研究所知能情報技術研究所所長

(◎:主査、○:主査代理)